

2021.3 月期決算メディア向け説明会 質疑応答要旨

- 1、日時：2021 年 5 月 18 日(火)14:00-14:40
- 2、場所：株式会社日本製鋼所本社
- 3、参加者：宮内社長、松尾副社長、岩本取締役、菊地取締役、三戸執行役員

北海道新聞 小澤記者

Q : GaN (窒化ガリウム) 基板の製造装置について。現在稼働している実証設備が製造設備という認識でよいか。また、2022 年度初頭の市場供給開始を目標とのことだが、販売目標の目途を聞きたい。

三戸 : 従前の設備を大型化して高品質なものを生産できるか、実証実験したものなので、そのまま生産設備となる。現時点では 1 基だけだが、将来の需要に応えられる設備投資計画を今後、進めていきたい。

GaN の需要については、2030 年時点で高周波デバイスとしての市場規模は 5 千億円と予測されているが、そのうちの基板ビジネスは数百億円レベルで当社の事業としては数十億と考える。

Q : 三菱ケミカルと共同で研究してきたとのことだが、JSW の事業として販売をするのか？

三戸 : ビジネスモデルについては未だ協議中だが、当社は全量を三菱ケミカルに納品する予定。

Q : 今期の受注概況で唯一厳しい状況のクラッド鋼板・鋼管の今後の見通しについてお聞きしたい。21.3 期第 2 四半期決算時では、21.3 期中に案件を受注できると聞いたが、厳しい状況が続くのか。

岩本 : 2019 年に原油価格が下がり、オイルメジャーが減損を出して以降、市況の動きがない。一部中東の国営石油会社に動きは見られるものの、新型コロナウイルスの影響もあり、需要が更に激減した。プロジェクトが消滅したわけではなく、政府の判断待ちなどで進捗が鈍化しているだけだが、見通しは不透明と言わざるを得ない。

鉄鋼新聞 谷山記者

Q 銅合金の商用生産について。予定どおり 2021 年 9 月末開始となるか。

三戸 : 7 月くらいまでに総合試運転の終了を目標としているが、商用生産の開始は、J X 金属に試作品を評価していただいた後になる。新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、遅れてはいるが両社の希望としては上期末開始を考えている。

Q 新中計の財務戦略の成長投資について、詳細をお聞きしたい。

宮内： 450 億円の設備投資計画では設備の更新で 300 億円。戦略投資に 150 億円を見込んでいる。
150 億円については産業機械事業の拡大や、フォトニクス、複合材料、金属材料など、新事業の育成と拡大への投資を考えている。研究開発費の増額は新事業に加え、AI、IoT 強化に対応するため。
M&A 投資 300 億円は、プラスチック加工機械と素形材に次ぐ、第 3 の柱となる事業を作ること念頭に置いている。

産業新聞 濱坂記者

Q 新中計で「CO₂排出量の削減」について掲げているが素形材・エンジニアリング事業で進行している CO₂削減策についてお聞きしたい。

岩本： 昨年度、カーボンニュートラルを目指し、圧延機の原動機をボイラーから電動化に切り替えた。
このような策を地道に積み上げていくことと、今後、水素やアンモニアを燃料とする工業炉の開発が出てくると思われるので、そちらにも期待している。

Q 2026 年 4 月以降の長期ビジョン「ワクワクして働ける会社」とは、具体的にどのような企業像、イメージを描いているか。

宮内： 当社の従業員はおとなしく、優等生のイメージがあるが、企業規模拡大と表裏一体でスタートアップ企業のようなアグレッシブな風土も採り入れ、従業員が働き甲斐を持つ会社を目指したい。

以 上